

女性記者を取り巻く共通の課題

交流プログラムに参加した日本とアジア・太平洋諸国の女性記者 33 名は、3 日間を通して、女性記者の活躍やメディア業界における女性活躍などについて、様々な視点から意見を交わし交流した。

この交流を通じて、女性記者を取り巻く様々な課題が浮き彫りになり、また、各国の女性記者に共通する課題があることも分かった。

【女性記者を取り巻く共通の課題】

- ▶ 出産・育児などのライフイベントとキャリアを両立するには、国や会社による様々な制度に加え、社会的な規範が重要である。
- ▶ 昼夜問わずスクープ記事を追い求めてしまう現状と女性活躍推進のはざまで感じるジレンマ、女性には危険な取材を担当させない過剰な配慮、性別役割分担意識の根深さなどは、国を超えた共通の課題である。
- ▶ 女性を巡る問題は、女性だけの問題に留まらないこと、男性が多様性を受け入れることの価値を理解し、取るべき行動を自らが導き出すことが重要である。こうした理解促進のため、男性にジェンダーに関する記事を読んでもらうには、読者ニーズの可視化などの戦略が必要である。
- ▶ ジェンダー課題を理解するためにはもっと他の国を知るべきであり、メディアが取り上げねばならない。
- ▶ 教材や絵本において、女性は主婦として描かれている。社会の変化に合わせて女性が描かれるコンテンツも変化が求められており、もっと多くの女性記者がコンテンツについて意識する必要がある。
- ▶ 男性には想像しにくい性暴力の問題などを取り上げていくためにも、女性の視点がもっと必要である。
- ▶ メディア業界のワーク・ライフ・バランス課題解決のためのアクションプランのひとつとして、上司と女性部下との対話によって、相互理解を深め、お互いに力を合わせ希望する働き方やキャリアを実現していくことが必要である。

本報告書に取りまとめている女性記者の声は、世論の形成に大きな影響力をもつメディア業界において、視点の多様性を向上させることがいかに重要なかを再認識させられるものであった。

女性記者のネットワークと一人ひとりの Hasshin! (発信、発信) によって、アジア・太平洋諸国の相互理解、友好・信頼関係の深化が、さらに発展することを期待するとともに、男女共同参画局は女性記者によって示された様々な課題を認識し、メディア業界における女性活躍に向けて取り組んでいく。

過年度のアジア・太平洋輝く女性の交流事業報告書

平成 28 年度から平成 30 年度は女性起業家に焦点を当てた調査を行っており、内閣府男女共同参画局のウェブページで過年度の報告書を公開している。

○平成 28 年度報告書



QR コード

URL: http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/asia_h28_research.html

○平成 29 年度報告書



QR コード

URL : http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/asia_h29_research.html

○平成 30 年度報告書



QR コード

URL: http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/asia_h30_research.html